

(別紙様式 2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 26 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

情報学部長事務取扱
酒井三四郎

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 25 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
大筋ですでに実施しているが、H26 年度時間割作成の際に、学生からの要望をできるだけ配慮して作成する。 実施時期 (予定を含む) : H26 年度以降の時間割作成時
改善状況
(1) 情報学部・研究科は、学部・研究創設以来、絶えずカリキュラムや時間割の見直しを行っている。4年に1度、大幅なカリキュラムの改訂まで行っている。 (2) H25 年度入学生から、キャップ制の導入も実施した。 (3) 学生等アンケートの関連表 (末尾に掲げた参考資料 1) を見ると、改善要求は 3-4 年生で高く、1-2 年生で低い。これは、学生の改善希望に対する情報学部の対応を反映しているのではないかと解釈できる。
達成年度 (予定を含む)
平成 27 年度

改善事項
学部生の英語
改善計画

<p>情報学部では、元々、下記のように大筋で実施しており、さらに平成 25 年度より英語コミュニケーション系の科目の選択必修 1 科目を制度化し、さらに充実したカリキュラムをスタートさせている。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>(1) 情報学部では、創設以来、専門科目での英語科目をかなり強化してきた。</p> <p>(2) 実際、英語の native 教員も 3 名配置している。1 学年 200 名規模の学部としては、かなり手厚い配置といえる。</p>
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度

改善事項
学部生の初修外国語
改善計画
<p>本学部は、各年度当初のガイダンスで留学やインターンシップを学生に強く勧めているが、H26 年度春のガイダンスで非英語圏の静大協定校への留学をさらに勧めることとする。なおこの課題は 1 部局の問題に止まらず、初修外国語部会との連携も重要ではないかと思われる。</p> <p>(1) 浜松の地域性を考えると、ポルトガル語の導入が望まれる。地元地域の外国人の人々との交流に役立てられるであろう。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>情報学部では初修外国語の学習を教養科目必修として重要視している。初修外国語は、その言語を習得するというよりは、その国・地域の理解の窓口としての役割が重要である。本学部は、各年度当初のガイダンスで留学やインターンシップを学生に強く勧めている。</p>
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度

改善事項
学部生の国際的視野
改善計画

<p>情報学部で取り組んでいる重要事項の一つである。さまざまな補助金（「山本学生国際交流基金」など）を活用して一層学部生の留学、インターンシップ、留学生・外国人との交流イベントを支援する。特に、H25年度に浜松キャンパスにおける留学生と日本人学生の交流を促進するため「情報学部学生福利厚生会」から補助金を支出することに決定した。ただし、留学生との交流等も、一部局を超える取り組みが多い。全学的取り組みも強化すべきではないか。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>七夕やクリスマスなどで、留学生との交流会も実施している。特にH25年7月には「アメリカで七夕を開くと」というコンセプトで七夕パーティを情報学部教授指導の下で学生たちが実施して、国際的視野の涵養を図っている。</p>
達成年度（予定を含む）
平成27年度

改善事項
大学院生の英語教育
改善計画
<p>情報学研究科では「Presentations in English」と「English thesis writing」という native 教員によるオール英語の授業科目を実施している。さらに、下記のように大筋ですでに実施している。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>(1) 情報学研究科では、創設当初から、国際学会での発表を推奨している。奨学金の返還免除の選考にも加えている。</p> <p>(2) これまでの取り組みの結果、情報学研究科院生が国際学会で、発表賞等の多くの表彰を受けている。この点は、第1期中期計画の現況調査票でも、高く評価されている。</p> <p>(3) 英文で修士論文を作成した事例、英語で修論審査会の発表を行った事例も存在する。</p>
達成年度（予定を含む）
達成済み

改善事項
「学級・学校でのマネジメント能力」の習得度
改善計画

<p>情報学部は、高校「情報」の教員免許課程をもつ。しかしながら、情報学部・研究科を卒業・修了して教職についている者はわずか1名である。したがって、アンケートの結果は該当しないと思われるが、静大全体の「教職指導のあり方」の問題として情報学部も取り組む。</p> <p>実施時期（予定を含む）：ほぼ非該当</p>
改善状況
<p>情報学部は、高校「情報」の教員免許課程をもつ。しかしながら、情報学部・研究科を卒業・修了して教職についている者はわずか1名である。したがって、アンケートの結果は該当しないと思われるが、静大全体の「教職指導のあり方」の問題として情報学部も取り組む。</p>
達成年度（予定を含む）
ほぼ非該当

改善事項
進路支援
改善計画
<p>保護者へのさまざまな情報提供を情報学部としてすでに取り組んでいる。今後も、H25年10月発行予定の下記の「Joy風」とH25年11月開催予定の「保護者懇談会」で一層、保護者への広報を務める。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施中</p>
改善状況
<p>(1) 情報学部では、広報誌「Joy風」を年2度発行しており、その中に就職状況の情報を掲載している。この広報誌は、高校ばかりでなく在学生保護者にも送付している。</p> <p>(2) 春と秋に行う保護者懇談会では、就職状況に関する詳しい説明を行っている。</p> <p>(その他)</p> <p>なお保護者アンケートの自由記述を参照すると、記述数が多いものの、保護者の不満は、情報学部・研究科の対応と言うよりは、社会・企業に対する不満と言うべき内容がほとんどであると理解できる。</p>
達成年度（予定を含む）
達成済み